

愛知県立大学・RMIT大学連携国際シンポジウム

社会インフラとしてのコミュニティ通訳制度構築検討に向けて： 大学と自治体の国際連携

日時

2024年12月12日（木）9:30-17:30

場所

愛知県立大学 長久手キャンパス 多目的ホール
x ZOOMウェビナー

使用言語

日本語・英語（一部バスク語）（日英同時通訳、日本手話通訳あり）

主催

愛知県立大学大学院国際文化研究科コミュニティ通訳学コース

協力

RMIT大学通訳翻訳修士課程 **後援** 愛知県

参加費と定員

シンポジウム：無料、対面：100人、オンライン：500人
懇親会：有料、50人

参加申込

次のQRコードまたはURLからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/ir4czp5r6x>



締切

11月28日（定員になり次第締め切ります）

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522番3

アクセス

東部丘陵線（リニモ）「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩約3分

問い合わせ先： 学務課 community-renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

開催の主旨

愛知県立大学とRMIT大学（オーストラリア）は2024年8月に大学間学術包括協定を締結しました。これを機に、RMIT大学のErika González准教授のイニシアティブによりオーストラリアとスペインから8名のコミュニティ通訳・翻訳の専門家が本学を訪問し、公開国際シンポジウムを開催することになりました。

移民国家であるオーストラリアは、コミュニティ通訳においても先進的な取り組みを行っていることが知られています。たとえば、NAATI（国家翻訳・通訳者認定機関）により翻訳・通訳の質が担保され、無料の多言語電話相談が全土で実施されています。また、社会インフラとしてコミュニティ通訳・翻訳制度が整備され、研究・教育と行政との連携も進んでいるように見受けられます。他方、愛知県は海外にルーツのある住民が多く、多言語・多文化共生の取り組みが積極的に推進されているものの、日本全体で見ると通訳者の資格・認定制度は未だ整備されておらず、コミュニティ通訳の必要性自体も社会的に十分認知されているとは言い難い状況です。

本シンポジウムは、コミュニティ通訳の社会的認知を向上させ、コミュニティ通訳を社会的インフラとして機能させるためのしよみの検討に向けた第一歩として位置づけられます。RMIT大学、愛知県立大学および両大学と様々な形で連携している自治体、公的機関、教育機関の専門家・実務家が、コミュニティ通訳をめぐる実践の成果を共有し、今後の課題を浮き彫りにします。

なお、シンポジウムを主催する本学国際文化研究科コミュニティ通訳学コースは、文部科学省「人文社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」としてRMIT大学他海外3大学院との連携による「多言語多文化社会で必要とされるコミュニケーションデザイン能力を有する専門職人材の共同育成」プログラムを申請し2024年9月に採択されました。



愛知県立大学
Aichi Prefectural University

進行プログラム

司会：小池 康弘（愛知県立大学教授）

コーディネーター： Erika González（RMIT大学准教授）

吉田 理加（愛知県立大学准教授）

- 9:30 **開会のあいさつ**
川畑 博昭（愛知県立大学学長）（日本語）
- 9:45 **基調講演「社会インフラとしてのコミュニティ通訳・翻訳」**
-10:45 Erika González（RMIT大学准教授）（英語）
「愛知県における多文化共生社会づくりの取組と課題」
- 10:45 中西 真希（愛知県民文化局 県民生活部 社会活動推進課
-11:15 多文化共生推進室長）（日本語）
- 11:15 **「質の保証のための通訳者・翻訳者認定制度」**
-11:45 Mark Painting（NAATI, CEO）（英語）
- 11:45 **「通訳者と受容者間の品質に関する受け止め方」**
-12:15 福野 茉穂（RMIT大学講師）（日本語）

12:15-13:30 昼休憩

- 13:30 **「医療機関における言語サービス統合型システム」**
-14:00 Emiliano Zucchi（Language Loop, CEO）（英語）
- 14:00 **「自治体の音声翻訳システム使用における課題」**
-14:30 武田 珂代子（立教大学特任専任教授）（英語）
- 14:30 **「警察通訳と倫理」**
-15:00 Miranda Lai（RMIT大学上級講師）（英語）

15:00-15:30 休憩

- 15:30 **「言語権の具現化手段としての公的コミュニティ通訳・翻訳制度：
-16:00 バスク公的通訳・翻訳制度について」** Joseba Urkia（スペイン・
バスク州IVAP主任通訳官）（バスク語→英語）
- 16:00 **「医療通訳を介した診察」**
-16:30 今橋 真弓（名古屋医療センター臨床研究センター
感染・免疫研究部 感染症研究室長）（日本語）
- 16:30 **「在日ムスリムにおける医療通訳の必要性」**
-17:00 大橋 充人（愛知県立大学客員共同研究員）（日本語）
- 17:00 **「司法通訳における通訳人の中立性と倫理規定」**
-17:15 吉田理加（愛知県立大学外国語学部准教授）（日本語）
- 17:15 **閉会のあいさつ**
-17:30 糸魚川美樹（愛知県立大学副学長）（日本語）

18:00-20:00 懇親会

スペイン語通訳ワークショップ

ワークショップの概要

三部構成で講義と演習を行います。第一部では、コミュニティ通訳の研究者兼実践者がコミュニティ通訳における倫理規定について講義し、通訳を介した2言語コミュニケーションにおける相互行為マネジメントの方法を指導し、実践練習を行います。第二部では、スペイン語とバスク語という言語構造が大きく異なる言語間の通訳を実践している通訳官が講師となり、言語距離の大きな言語間の通訳・翻訳技術について講義と演習を行うことを目的としています。第三部では、DV被害者の通訳に焦点をあて、通訳者が直面する困難や訓練の方法についてお話しします。

講師

Dr. Erika González氏 (RMIT大学准教授)
Sr. Joseba Urkia氏 (バスク州IVAP主任通訳官)
Dr. Olga García-Caro氏 (RMIT大学講師)

日時

12月11日(水) 14時 - 18時

場所

愛知県立大学 長久手キャンパス CroCus
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522番3
東部丘陵線(リニモ)「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩約3分

言語

スペイン語

参加定員

日本語・スペイン語通訳者(20人)
日本語・スペイン語の通訳を学んでいる学生(10人)

参加申込

QRコード(またはURL)からお申し込みください。
<https://forms.office.com/r/pwTrJpu5HG>
申し込み締め切り: 11/28
※先着順、定員になり次第締め切ります。



参加費

無料

問合せ先

学務課 community-renkei@bur.aichi-pu.ac.jp



愛知県立大学
Aichi Prefectural University

スペイン語通訳ワークショップ

講師紹介

第一部 コミュニティ通訳における倫理規範と相互行為マネージメント

コミュニティ通訳における倫理規定について講義し、通訳を介した2言語コミュニケーションにおける相互行為マネージメントの方法を指導し、実践練習を行います。



Dr. Erika González氏 (RMIT大学准教授)

RMIT大学 翻訳・通訳修士課程 プログラムマネージャー

RMIT大学 (オーストラリア) の翻訳・通訳修士課程のプログラムマネージャー、AUSIT (オーストラリア通訳者翻訳者協会) 前会長。ヨーロッパおよびオーストラリアで20年以上にわたり、学部および大学院レベルで翻訳・通訳の教鞭をとり、バスク語、スペイン語、英語の会議通訳者でもある。研究の関心はコミュニティ通訳・翻訳の専門職化、非英語話者に対する言語障壁の影響などにある。

第二部 典型的に言語距離がある言語間の通訳

スペイン語とバスク語という言語構造が大きく異なる言語間の通訳を実践している通訳官として、言語距離の大きな言語間の通訳・翻訳技術について講義と演習を行う



Sr. Joseba Urkia氏 (バスク州IVAP主任通訳官)

スペイン・バスク州政府 (IVAP) の公式翻訳通訳サービスで通訳官を30年以上務める。バスク語とスペイン語の認定通訳者である。セミナーや通訳者養成コースを開催し、さまざまな公式機関の試験・選考委員会にも携わっている。

第三部 DV被害者の通訳をする際に、通訳者が知っておくべきこと

DV被害者の通訳に焦点をあて、通訳者が直面する困難や訓練の方法について説明する。



Dr. Olga García-Caro氏 (RMIT大学講師)

RMIT大学の翻訳通訳修士課程講師。主な研究テーマは、コミュニティ通訳、特に家庭内暴力の現場における通訳と、移民および難民の女性の公共サービスへのアクセスの向上に焦点を当てている。スペインの認定通訳・翻訳者であり、コミュニティの現場で豊富な経験を有している。

中国語通訳ワークショップ

コミュニティ通訳の共感疲労（代理トラウマ）とセルフケア

ワークショップの概要

コミュニティ通訳者は、虐待経験者や生活に困難を抱える人、更にはシリアスな医療現場などの感情的に負荷の高い環境で通訳することにより、通訳者自身が共感疲労（代理トラウマ）という二次的PTSDのような症状を発生することがあります。本ワークショップでは、講師が通訳者の共感疲労について講義し、セルフケアのための方法や通訳の技法を紹介し、参加者と議論します。

講師

Dr. Miranda Lai氏（RMIT大学上級講師）



講師紹介

頼貞慧（Miranda Lai）先生はRMIT大学（オーストラリア）通訳・翻訳学上級講師。通訳を介した警察の取り調べにおいて通訳者がいかに関与したかについての研究で博士号を取得。研究の関心は、公的サービスにおける翻訳・通訳、警察での通訳、法廷の録音書き起こしと翻訳、そして翻訳者・通訳者の代理トラウマとセルフケアなど。主な出版物は以下の通り。『Police Investigative Interviews and Interpreting』（2015）および『Ethics for Police Translators and Interpreters』（2017）（共著）。

日時

12月11日（水）14時 - 16時

場所

愛知県立大学 長久手キャンパス CroCus
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522番3
東部丘陵線（リニモ）「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩約3分
中国語

言語

参加定員

日本語・中国語通訳者（10人）
日本語・中国語の通訳を学んでいる学生（10人）
申し込み締め切り：11/28
※先着順、定員になり次第締め切ります。

参加申込

QRコード（またはURL）からお申込みください。
定員になり次第締め切ります。
<https://forms.office.com/r/Zsyh4H5444>



参加費

無料

問合せ先

学務課 community-renkei@bur.aichi-pu.ac.jp